

研究室から――

【東北芸術工科大学
総合研究センター】

教授 三田 育雄



本学の総合研究センター（以降「研究センター」と略称する）は、アートやデザインという分野に特化して、実業界や地域に深くかわりを持つ形で展開してきたことで各方面から関心を寄せられているようである。以下、その活動の足取り、目指しているものや仕組みなどについて紹介したい。

研究センターの足取り

本校が開設された一九九二年以降、今日までの十余年は、わが国の産業、社会、行政などのいずれの領域において、かつてなかったような問題が次々と発生し、大幅なモデルチェンジやリストラが求められた時代であった。そのため、産業界や自治体などからその対応の一環として、本校の教員に対する制作

や研究委託の依頼が年とともに増えてきた。

こうした依頼に対して当初は個別に対応していたが、各界からの問い合わせに対して大学（学校法人）がかかわることが少なくなかったこと、件数が増えるにしたがって契約や金銭の適正な管理が必要になってきたことなどから、一九九七年に、学内に外部からの制作や研究委託を一元的に統括する研究センターが設置されることとなった。

以来、地域の自治体や企業から研究センターに寄せられた共同研究や受託研究は約百八十件、金額にして総額四億円ほどに達して

アート、デザインを

地域や産業界へ還元

いる。

この間、二〇〇一年には文化財保存修復研究センターが独立して、文化財保存修復の受託事業とその成果の教育への還元を目指して、文化財の保存修復に対する啓蒙・リカレント教育や情報発信などに取り組むこととなった。

こうした部門別の研究センターの設置の動きは他にもあるが、現在のところ総合センターとの関係や位置づけに関して特別の方針を打ち出しておらず、しばらくは成り行きを見守りながら対応して行くこととしている。

表1 最近の受託研究の例

件 名	委 託 者
日本酒新商品に関するトータルデザイン	出羽桜酒造株式会社
アクセスルータ「MUCHO」デザイン	古河電気工業株式会社
山形駅東口駅前広場人工地盤整備に伴う修景検討	山形県
高畠町サイン計画策定	高畠町
都心居住に関する調査及び基本構想策定	山形県・山形市
山村振興等地域連携推進事業計画策定	八幡町
皮革素材の応用開発	ホクヨー株式会社
やまがた地域観光データベース事業	やまがた地域観光振興協議会
山辺町畑谷「吉田家住宅庭園」実測図作成	山辺町教育委員会
朝日町学校跡地利用計画策定	朝日町
みゆき会蔵王みゆき病院「Art in Hospital」構想	医療法人社団みゆき会
住宅一体型インテリア製品の企画開発研究	北進木工株式会社
山形市民文化賞賞牌原型製作	山形市

なお、昨年度はロイヤルティーが生じた場合の研究者への利益配分や受託研究で生まれた知的所有権帰属などに問題が浮上してきたために諸規程を設けたが、当面はこのように個別対応をはかりながらセンターの整備をはかって行く予定である。

研究センターの仕組み

研究センターの業務は、企業・自治体から委託による受託研究が中心であるが、この他にも共同研究（企業・自治体から研究者を受け入れての共同研究）、情報収集・提供、寄付研究（企業等からの寄付による研究で、研究名に寄付者の名前を冠す）、セミナー開催、コンサルティング（依頼・相談内容について関連する研究者の紹介）、自主プロジェクト（研究センターの独自の自主研究）など、さまざまな形態がある。

こうした研究業務に対しては本学の各学科の教授、助教授、専任講師、助手があたり、現段階では研究センターの専任研究者は配置されていない。したがって、研究領域は大学の学科構成そのものとなっている（表2）。

また組織としては、兼務の研究センター長があり、その下に協議組織としての「総合研究センターボード」と事務組織としての研究支援センターを設けている。

表2 研究領域

デザイン開発・製品企画関連
建築設計・地域・都市計画関連
グラフィックデザイン・映像
IT関連
文化財保存修復・遺跡調査関連 *1
東北文化学関連 *2
美術・デザイン作品制作関連
文化教養・教育関連

* 1 文化財保存修復研究センター所管

* 2 東北文化研究センター所管

研究センターの目指すもの

本校は、昨今やもすると軽視されがちな「自らの手でものを創造すること」を復権しようという理念に基づいて開校されたことから、ほとんどの教員は大学の研究室育ちではなく、アトリエ、工房、デザインや設計事務所などの出身者や現役の主宰者で占められている。



産学交流山形ネットワークによるパネルディスカッションの光景

また、集まってくる学生も研究者志向ではなく、芸術家やプロフェッショナルなデザイナーやプランナーを目指している。

したがって、こうした環境の中に設置された研究センターの活動は、学術的な研究よりは、産業界や地域社会と深くかわりを持ちながら実践的な研究に向いている。

地域のさまざまな生業やくらしの営みを研究することから多くを学び、その成果を再び地域の中にかえして行く行為を、発展的に継続することを目指している。

それ故、研究センターは地域資源の学内教育へのフィードバックと、大学の研究資源の社会還元という使命を担っているといえる。

特に後者は、本校が公設民営であるという事情に加えて、少子化時代の熾烈な大学間競争に生き残るためには、地域社会の中で評価される大学でなければならぬという認識から強く意識しているところである。

■ 三田 育雄（みた・いくお）

東北芸術工科大学環境デザイン学科教授、同大学総合研究センター長。

昭和14年東京都生まれ。

平成5年4月地域計画コンサルタントを経て現職。農学修士。

主な研究領域：農山村計画、地域間交流。

主な活動フィールド：山形県西川町、八幡町升田。群馬県川場村。

主な活動：第3セクターの経営（群馬県川場村榎田園プラザ川場代表取締役）、森づくり（芸工大森づくりの会代表、世田谷区森林づくり塾長）